

## たいとろーぷ

Tight Rope

第8号

2003年2月15日発行

## おかげさまでAGもスタートして5周年を迎えます。

寒さ厳しい折、皆様如何お過ごしですか。AGも今年で5周年を迎えます。つい先日スタートしたばかりだと思っていたのですが…。月日が過ぎるの早いものです。AGがここまでこれたのも皆さんの温かい励まし、そして厳しいご指摘のおかげです。スタッフ一同深く感謝しております。これからも、皆さんとともに「一緒に感動しよう」をモットーに頑張りますのでよろしくお願い致します。

## 無料机上講座

入場無料・予約不要。直接会場にお越し下さい。

「ヨーロッパアルプス名峰登頂」  
モンブラン・マッターホルンを目指して

日時 4月8日(火) 19:00～21:00

ヨーロッパアルプス名峰登頂を目指す人のための講演会。山岳ガイドと登ることを前提に、それぞれの山のルートの解説、登頂に必要な技術、国内でのトレーニング、装備、現地までの旅の技術等に関して近藤謙司が詳しく解説します。モンブラン、マッターホルンのルートのスライドも紹介します。

## 「憧れの高所登山」

世界の6000m峰、8000m峰を目指して

日時 4月9日(水) 19:00～21:00

夏山中心の活動でアイゼン未経験の方が、雪山登山からスタートしてステップを踏みながら6000m峰、いつかは8000m峰を目指すための心構え、トレーニング、装備等について、近藤謙司が解説。ネパール・アンデスの6000m峰、2002秋チョー・オユー(8201m)公募登山隊のスライドも上映します。

各回共通 場所：文京区役所内 文京シビックセンタースカイホール

東京都文京区春日1-16-21 文京区役所26階 地下鉄 丸の内・南北線 後楽園駅5番出口隣接

## 関西地区机上講習会開催

## 「世界の名峰登頂にチャレンジ」

日時 4月10日(木) 18:30～20:30

皆様の強いご要望にお応えして、関西地区の机上講座を開催。東京で行なわれる2つの机上講座「ヨーロッパアルプス名峰登頂」「憧れの高所登山」の内容をコンパクトにまとめて近藤謙司が解説。モンブラン、マッターホルン、2002年秋チョー・オユー

(8201m)公募登山隊のスライドも上映致します。

場所 アピオ大阪 (大阪市立労働会館)

大阪市中央区森ノ宮中央1-17-5

JR環状線、地下鉄 丸の内・南北線 森ノ宮駅徒歩2分

入場無料・予約不要。直接会場にお越し下さい。

イベント終了後に関西地区懇親会を予定しています。スタート時間はチョット遅いのですが、軽くビールでも飲みながら山の話で盛り上がりましょう。参加希望者は、当日机上講習会場までお越しください。

## \*\*\*特別企画\*\*\*

「AGファーストエイド講座」  
ベーシックMFA取得コース

4/14(月)～16(水)3日間 要予約

時間:19:00～22:00 1日3時間 計9時間

場所:AGオフィス 講習費用:¥15,000.  
講習費に含まれるもの:講習・教材費、実習キット  
マニュアル、ポケットガイド、ライセンス発行料

MFA、メディックファーストエイドプログラムは、20年以上前にアメリカで生まれ、現在世界80カ国以上に普及している応急救護講習プログラムです。一般市民レベルの応急手当のプログラムで、そのソフト(ノウハウ)とハード(教材などの伝達媒体)は数年ごとに最新の医学、そして教育学的情報を盛り込んでアップデートを続

けています。今回AGのオフィスにMFAのインストラクターにお越し頂きベーシックMFA取得を目的とした講習会を開催します。是非、この機会に最新のファーストエイドを勉強してください。山での行動中はもちろん、日々の生活にも役に立つはず。終了後には、MFAの国際ライセンスを発行致します。

# ◆◆◆お楽しみイベント情報◆◆◆

## 「北アルプス 光城山お花見ハイキングと山菜ハイキング」

山菜取隊 4/19(土)～20(日) 会費 ¥6,000.  
花見隊 4/20(日) 会費 ¥2,000.

場所:長野県南安曇郡豊科町 光城山周辺  
(開花状況によって日程が変更される場合があります。)

春といえばモチロンお花見。今年は少し趣向を変え山でのお花見を企画。北アルプス山麓の豊科町光城山で雄大な景色の中お花見ハイキングを楽しみます。山麓から約1時間のコースはサクラ並木の中。山菜取隊と花見隊の2隊を設定。山菜取隊は前日の昼頃に集合。山に入り山菜名人の指導の下、春の味覚を採取。翌日のお花見でおいしいてんぷらを揚げることを最大目標として一所懸命頑張ります。山菜隊は宿泊費込みですが、貸別荘等を予定。食事の用意等みんなで楽しめます。

## 「地引網バーベキュー&山道具フリーマーケット」

5月25日(日) 10:00～15:00頃まで

場所:茅ヶ崎サザンビーチ「徳網」 会費:¥4,000.

\*参加者30人の場合、人数が増えたらもう少し安くなるかも…

昨秋に企画し低気圧の接近でやむなく中止になった幻のイベント「地引網バーベキュー&山道具フリーマーケット」皆様の強い要望にお答えして再び企画。湘南海岸で地引網をして、その取れた魚で「てんぷら&バーベキュー」そしていつものフリーマーケットと、内容盛りだくさんの企

画です。是非不要になった山道具等をお持ち下さい。春の日差しの中、のんびりと休日を楽しみませんか。

## A G懇親会町中編「モロッコ料理の夕べ」

6月11日(水) 19:00～ 会費 ¥3,500.

場所:東京・飯田橋周辺

チーズフォンデュ、モンジャ、焼肉、中華、屋形船、ネパール料理、と続いたAG懇親会。今回はモロッコ料理。最近、AGではモロッコ人気が高くツアーがよく催行されます。また、来年あたりモロッコ滑走隊も結成しよう、などと話題によくのぼります。そこで、懇親会第7回はモロッコ料理です。名物料理クスクス、ケバブ、タジン、ハリラなど聞いたことも無い北アフリカ・アラブ文化圏の珍しい料理を楽しみながら、山やスキー、ボードの話に花を咲かせましょう。

## 「山道具研究会」 \*要予約、参加無料

4/17(木) 5/21(水) 6/24(火)

各回とも 昼の部 15:00 夜の部 18:00

都内山道具店 (場所は参加者にご連絡します。)

「たくさんある山道具、何を選んだら良いかわからない」「買ったけど使いこなせない」「新しい機能を試したい」そんな声にお答えするために、山道具店の店先を借り山岳ガイドが登山者の立場に立って、実際に品物を手に取りながら、長所、短所のポイントを解説。山道具店といっても、何も購入する必要はありません。見学だけでOKです。希望があればもちろん購入も可能ですが、

## 「AGチョー・オユー公募登山隊 2002」の結果報告

前回の「たいとろーぷ」で出発までの経緯を紹介した、チョー・オユー公募登山隊。既にAGのホームページやテレビ、新聞のニュースで結果をご存知の方も多いと思います。皆さんの暖かく盛大なる応援のおかげで10名の隊員のうち7名の登頂者を出すことができました。その上、隊員の内田さんが70歳代で初の8000m峰サミッターという、世界記録まで作り出すというおまけまで付きました。AGのホームページで詳細な報告をしておりますが、ホームページを見ることが出来ない方からの強いご要望に応え、ダイジェスト版として結果を報告します。

総勢13名、平均年齢の58歳のAG隊のメンバーは9/1、元気に日本を出発しました。カトマンズで最終準備を終え、空路チベットのラサへ。ここからチベット高原を横断しながらBCへ。通常4日間で到達できるところ、じっくり高度順応を図りながら9日間という時間をかけ移動しました。

今回の最大の目標は全員登頂。そのためには高度障害の対応と体力の維持、ストレスをためずモチベーションを落とさないことが大きなポイントでした。食事は好き嫌いなどに配慮、宿泊も個室と一人テント。メンバーが快適に過ごせ、安心して体調を整えることが出来る条件づくりにガイドの近藤、大蔵は全力を集中しました。

BC(4950m)到着後、3日間の順応活動、そして、ABC(アドバンスドベースキャンプ・5700m)に入ってから、体力の消耗を考え、きつい順応活動を避けC1(6400m)へ

の往復のみとし、これ以上の高さでの活動は自粛しました。AG隊はABCから頂上へのアタックに費やす日数を5日間という短期間に設定する、今までの登山隊では考えられないタクティクス(戦略)を採用しました。これは無理に7000m以上の高所で順応活動を行い体力を消耗するより、C2(7200m)以降に睡眠用と行動用酸素を積極的に使いながらアタックする方が隊員にとって最適な方法であると考えたからです。これは、6400mのC1にしっかり順化できていれば高所順応的にはOKという考えで、イメージとしては無酸素で7200mの山に登る感覚です。実際この作戦の効果は高く、ABCで隊員達は非常に良い体調を維持することが出来ました。特に食欲は食堂テントに「限らない食欲、限りある食量」という標語が張り出されるほどでした。(本当に食糧が底をつきそうで危なかったのです…)

AG隊のもう一つの特徴は毎日起こる事や行動日記を、ホームページで公開したことです。近藤、大蔵そして鈴木BCマネージャーが、パソコンと衛星電話を駆使し日本へ映像やレポートを送りました。これは非常に大きな効果を生みました。(かなりの電話料金をつぎ込みましたが…)特に隊員にとってホームページ上のメッセージエリアでの家族、友人とのやり取りは気分を和ませました。また、特にアタックのときはライブ中継ながら刻々変化する状況を報告し、のべ15000人が登山隊と一緒に行動でき感動を分かち合うことができました。(近藤隊のアタックの日は(あの日、仕事が手に付かず上司の目を盗みホームページに釘付けになった人が多かったとか…)また、2002年はモンスーン明けが遅れ、AG隊の登頂予定が大きくずれ込みBCに足止め。予備日も少なくなり隊員も皆焦りの色が濃くなっ

特に隊員にとってホームページ上のメッセージエリアでの家族、友人とのやり取りは気分を和ませてくれました。また、この年はモンスーン明けが遅れに遅れ、AG隊の攻撃の予定が大きくずれ込みBCに足止め。予備日も少なくなり隊員も皆焦りの色が濃くなってきた時に、ホームページ上で募集された日本からの晴天祈願メッセージやテルテル坊主の映像にどれだけ隊員たちは励まされたか計り知れませんでした。そして、攻撃のときにはライブ中継さながら刻々変化する状況を報告し、のべ15000人が登山隊と一緒に行動したような感動を分かち合うことができました。(近藤隊の攻撃の日は、仕事が手に付かず上司の目を盗みつつホームページに釘付けになった人が多かったとか…)

さて、ここから攻撃の話です。悪天候のせいで足止めを食ったAG隊、当初9/20に攻撃を予定していたのですが、なかなか出発できず、天候が安定するかにみえた9/25ついに近藤が率いる第1次攻撃隊が出発しました。しかし、やはり天候ははまだ安定せず、C1に2泊足止めとなっていました。やっと晴れ間が見えた9/28に近藤隊はC2へ、そして第2次攻撃の大蔵隊もC1へ向け出発。一歩ずつ前進することができました。9/29は上部の天候が安定せず近藤隊はC2で停滞、C2に上がってきた大蔵隊と一緒にになりました。

ここで大きな問題が発生しました。C3(7400m)のキャパシティーは1チームが限界だったのです。近藤チームが、9/30にC3を設営しその翌日に攻撃という形にすると、後発の大蔵チームは動くことができず、予備日を使い切ってしまう、撤退を余儀なくされてしまうのです。

ここで残された選択肢は一つ。近藤隊が一気にC2から山頂へ攻撃、大蔵隊がC3に入る方法だけでした。高所での滞在が長くなった近藤隊。通常体力を消耗し体調が悪くなっているはず。ところがABCまで余裕を持って順応したことが功を奏したのか、メンバーにはまだ十分に元気が残っていました。しかしもう一つの問題がありました。このシーズンのチューオユーは未だ誰にも登られていなかったのです。すなわち、C2から山頂へ攻撃した場合、トレースが全く無いルートを延々深雪のラッセルをしながら登らなければならないことでした。近藤はメンバーに「本当にこの過酷な攻撃を成し遂げる力があるのか」とC2からの攻撃に躊躇していました。ところがその時「そのやり方でやらせてください！」と隊員達の熱い一言。ついにC2からの攻撃が決まりました。近藤は無理だと言い張るシェルパたちを説得。9/30深夜0時起床。3:40出発。核心部で大田隊員が右肩を脱臼するアクシデントに見舞われながらも午前11:30に高橋、佐藤、柳田、大田各隊員、近藤と

シェルパ3名がラッセルに苦しみながらも山頂に立ち、この秋の第1登頂者となりました。酸素利用とはいえC2から約8時間という見事な行動でした。

同日C3を設営した大蔵チームは翌10/1午前2:30、アタック開始。花崎、白岩、少し遅れて内田、大蔵、そしてシェルパ3名が登頂。そして、一気に下山し、逃げるようにABCを撤収。余韻に浸るまもなく帰国となりました。

今回隊員の皆さんはそれぞれの「自分の冒険」に対し、精一杯自分の力を出し、ひたむきに頑張りました。中には高所経験が全く無かった隊員や半年前に初めてアイゼンを履いた隊員もいました。

私達が隊員の皆さんの「自分の冒険」をお手伝いして感じたことは「技術、経験」をどうのこうのいうより、「やる前から諦めずチャレンジすること」「始めたら最後まで成し遂げるひたむきな頑張り」と情熱が一番大切なんだと痛感させられました。

皆さんも是非「自分の冒険」を見つけチャレンジして頂ければと思います。AGスタッフも微力ながらお手伝いをさせて頂きます。最後になりますが、今回色々な感動を与えてくれました、隊員の皆さん本当に有難う。そしてこれからも「自分の冒険」を続けて下さい。！！

ホームページ <http://www.adventure-guides.co.jp/cho-oyu>  
関連記事:山溪02年12月号、岳人3月号、週刊誌・新聞等  
ホームページが見れない方はAGのオフィスで閲覧可能。  
ニュースが乗った新聞、雑誌の閲覧も可能です。

2003年もチュー・オユー公募登山隊を企画。詳細は募集要項をご請求ください。

## クラブメンバーを紹介します

### 第8回 本田哲也さん

裏山滑走隊のメンバーでスノーボーダーの本田さん。いつも明るい穏やかなキャラクターで皆を和ませてくれます。一部には「娘のダンナにしたいクラブ員No.1」との評判。実際、3月には安比高原にある男手のない奥さんの実家で雪下ろし。さすが！。ちなみに奥さんとの馴れ初めは、本田さんが骨折で入院した時の看護婦さんだったとのこ

と。ドラマのような話に聞いていた男性陣は「うらやまし〜」の連発でした。

本田さんの本職はWEBデザイナー。ホームページ作成など忙しい日々を送っているようです。もちろん趣味はスノーボード。しかし、それ以外にもいくつもの趣味が。料理(作る&食べる)、陶芸、テニス、サッカー観戦と数えたらキリがありません。そして、全てがクロウトはだし。昨年AGお泊り忘年会では、箱根に来る途中、横浜中華街で本場の食材を仕入れ、My蒸し器持参でやってきて、「本田流・北京ダック」などお

いしい中華を作ってくれ大好評でした。雪下ろしやスノーボードに忙しい本田さんに無理をいって、迷走を続けるAGのホームページの手直しをお願いしました。現在、「やさしい、楽しい」をモットーにした見やすいホームページを目指し奮闘中です。4月頃の公開です。乞うご期待。

## クラブアドベンチャーの海外ツアー

気心の知れたクラブメンバーのツアー。毎回家族旅行のような雰囲気が大人気。メンバー同士、励まし合いながら一緒にがんばり、そして、楽しみましょう。AGスタッフも同行。「やさしく」「楽しく」ツアーを演出します。

「今後の予定」次の年末年始、ガラパゴス諸島に行きたい方がいます。大型船も良いのですが船を一隻チャーターして、ワガママプランで満喫したいとのこと。ご一緒されたい方はご一報を。日程を調整します。

## クラブの一押しツアー

「初めての6000m峰にチャレンジ」  
ゆっくりメラピーク(6,473M)

2003年4/20(日)~5/14(水)

25日間 ¥698,000.

ネパールで技術的に最も登りやすい6000m峰とされるメラ・ピークを舞台に、キリマンジャロなど5000m峰経験者で雪山経験が少ない方が、初めて6000m峰にチャレンジすることを想定してプログラムを作りました。ゆっ

たりとした日程で、高度順応的にも、体力的にも余裕を持って頂けるように配慮。また、雪上技術に自身がない方のために現地アイゼン講習など、雪上訓練も行い、技術的な不安を解消してから登山にチャレンジして頂きます。登山は現地ネパール人ガイドとともに、日本人ツアーリーダーも同行。日本人ツアーリーダー1名に参加者4名の少人数制とし、旅行の部分も含め、きめ細かいサービスで精神的にストレスを貯めず快適に登山して頂ける

ようサポートします。テントももちろん一人テントです。憧れの6000m峰。でも自分には無理だと諦めている方に是非、お勧めしたいツアーです。

## Club&AG News

「たいとろーぷメール版を発信中」  
年2回発行のたいとろーぷ。「スタッフやメンバーのテレビなどの出演」「雑誌などの掲載情報」「お楽しみイベント」など、緊急のお知らせが伝えられません。そこで、メール版たいとろーぷで不定期に情報を発信中。ご希望の方は、AGまで是非ご一報を。

「AGオリジナルTシャツを販売中」  
好評のAGTシャツ。AGらしく山で使える素材で作成。種類は3種。「ダクロン

QD」を使ったダークグリーン、「ハイグラ」を使ったスカイブルーとオレンジ。サイズS,M,L,LL。値段¥3,000。(内税)通販も可能。送料は¥500.ですが、2枚以上は送料無料。

「山道具の注文販売をしています」  
スタッフが使っている山道具が欲しい。でもどこで売っているか判らない。そんな声にお答えして、山道具の注文販売をしています。私たちが使った良かった物だけを紹介。日本では売っていない、ダイニーマの補助ロープもシャモニより直で仕入れて販売中。詳しくは事務局まで。

「アドベンチャーガイド関連の本」  
スキージャーナル4月号

春山スキー特集の立山編をAGが監修

スノーボードV0.4

近藤がBCの基礎について寄稿。昨年のカナダBCツアーがグラビアに掲載

ヤマケイ 3月号

昨年のAGカナダBCツアーについて掲載

ヤマケイJOY2003春号

近藤がストックの使い方に関し寄稿

岳人3月号

AGチョーオユー公募登山隊に関し掲載

ヤマケイ連載「世界の名峰登頂ガイド」

大蔵が監修して主にAGガイドが原稿を書いているシリーズ

「AG&スキージャーナル」  
共同特別企画

「立山BCスキーキャンプ」

4月27日(日)~29日(祝) 3日間

参加費用 ¥38,000.(現地集合・解散)

近年人気のBCスキー。しかし、雑誌のグラビアなどのイメージが一人歩

き。「どうやってBCに入ったら良いか判らない」「入っていてもリスクの対処などを知らない」そんなスキーヤーが多いのが現状。そこで、AGとスキージャーナル誌は、魅力が多いBCだからこそ正しい方法でより安全に楽しんでもらいたい、ということでBCキャンプを開催。BCはリスクが高く豊富な知識と経験が必要。しかし、基礎から

しっかりと勉強すれば決して難しいものではない事を伝え、BCに入るための導入部分に関しての講習をします。色々な知識を身に付けこれからのステップにつなげてもらうことを目的としたキャンプにします。ゲレンデのみでBC未経験の人から、ある程度経験がある人まで。クラス分けしてレベルにあわせ講習します。

お申込み・お問合せ...

クラブアドベンチャー事務局

株式会社アドベンチャーガイド内

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-5-4山和ビル3階

TEL:03-5215-2155

FAX:03-3288-3211

e-mail info@adventure-guides.co.jp

Home Page http://www.adventure-guides.co.jp

受託販売 (株)アドベンチャーガイド 東京都千代田区飯田橋4-5-4,3F 東京都知事登録旅行業第3-4540号

旅行主催 (株)風の旅行社 東京都中野区新井2-30-4 IFOビル6F 国土交通大臣登録旅行業第1382号